

プレカット工場における 木材利用実態調査

調査期間：令和4年11月24日～令和5年2月28日

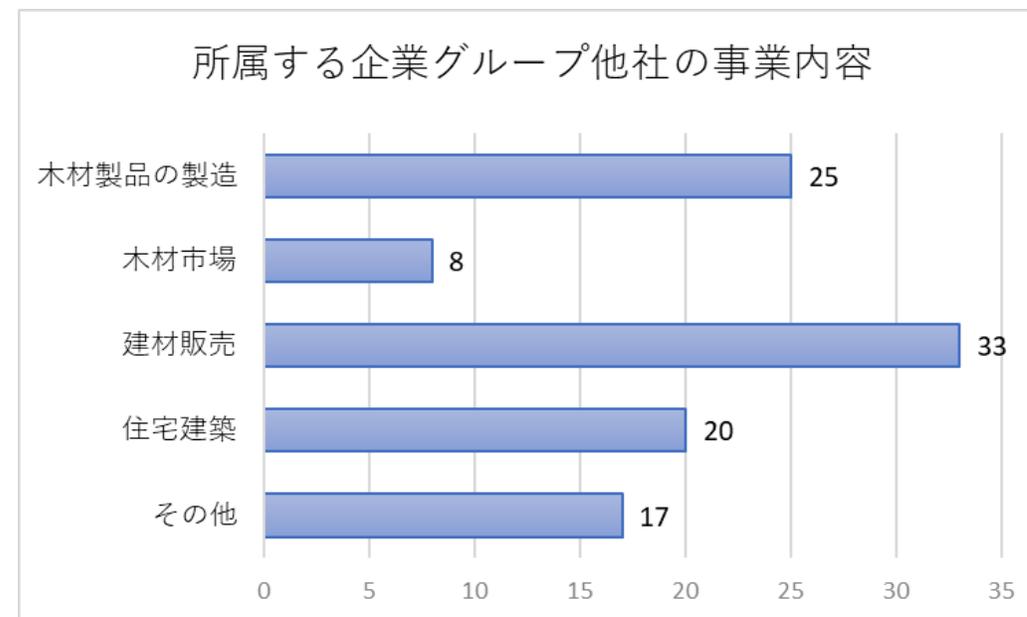
一般社団法人 全国木材組合連合会

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

回答者情報ー 1

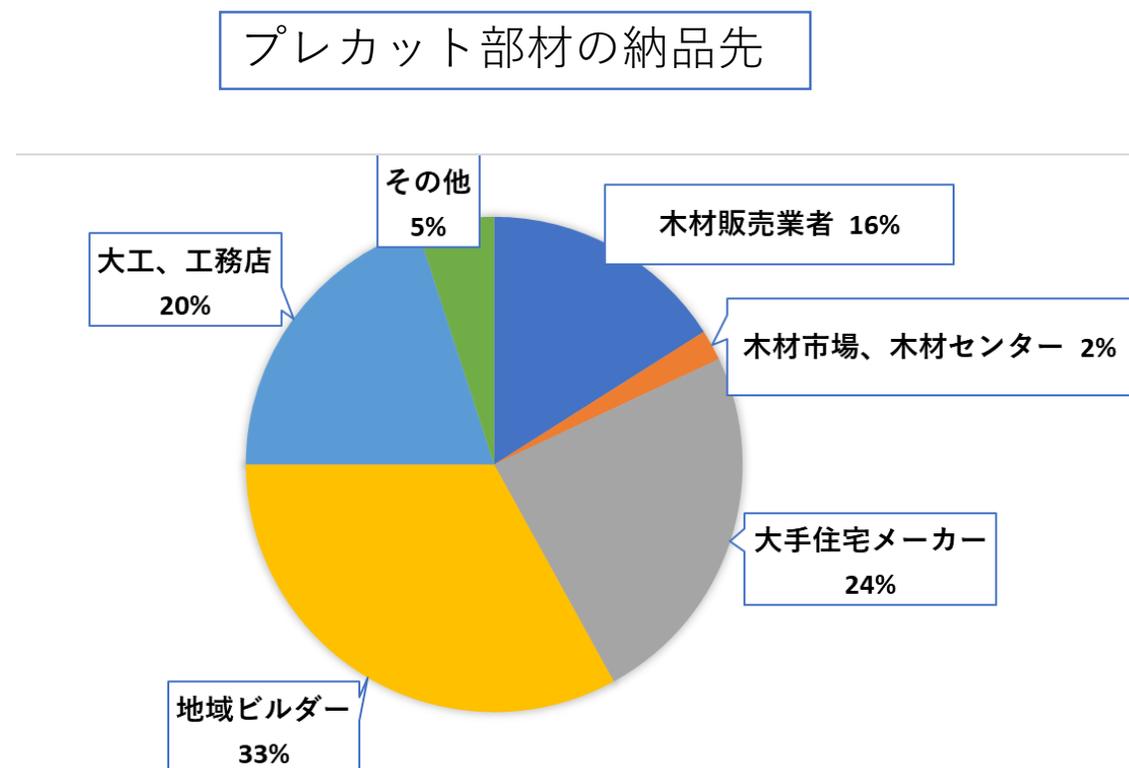
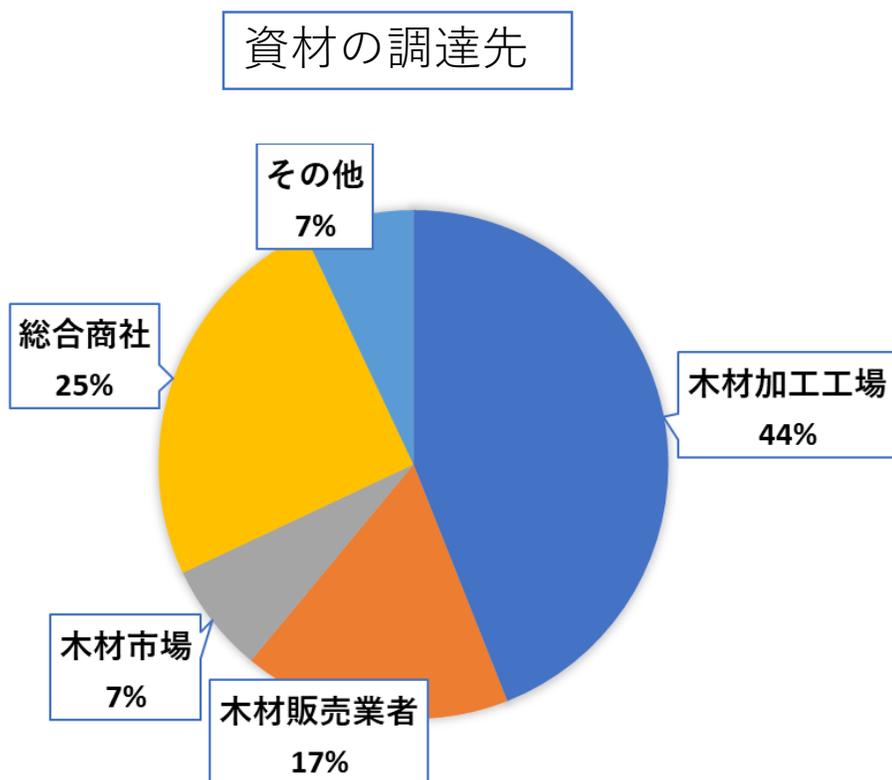
- プレ協会員企業(工場) : 37社
 - 協会外企業(工場) : 22社
- 計 59社より回答

- 59社の令和3年度の
プレカット加工総量 : 3,753,188坪
うち賃加工分 : 294,714坪



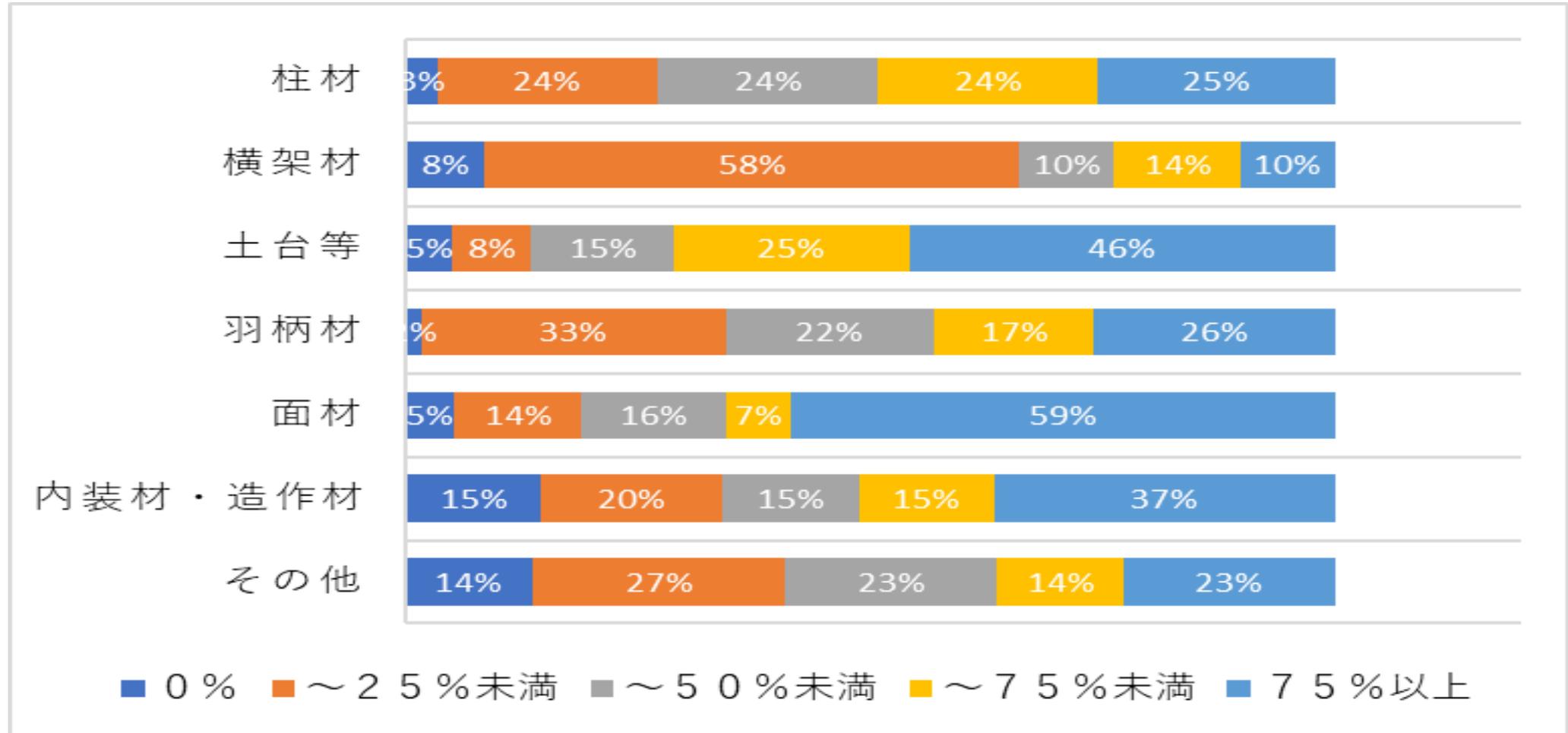
回答者情報－ 2

「資材の調達先」としては木材加工工場が多く、「プレカット部材の納品先」としては大手住宅メーカーよりも比較的小規模の地域ビルダーや大工、工務店が多い。

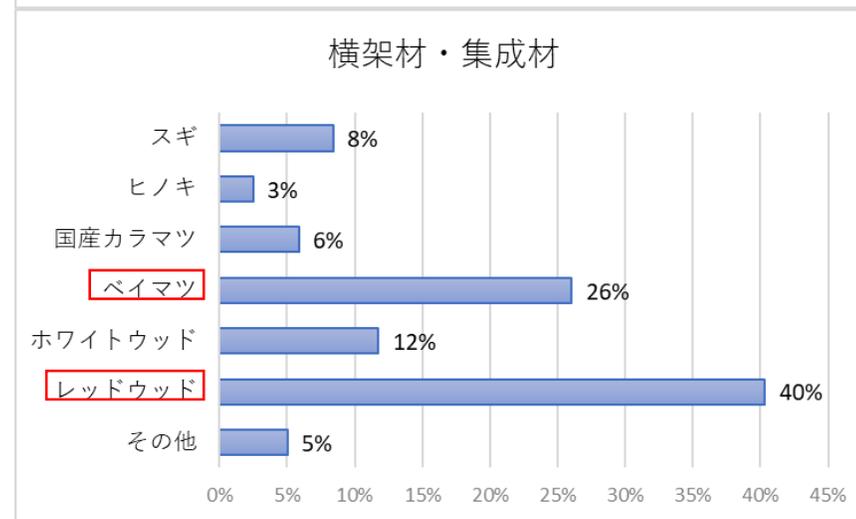
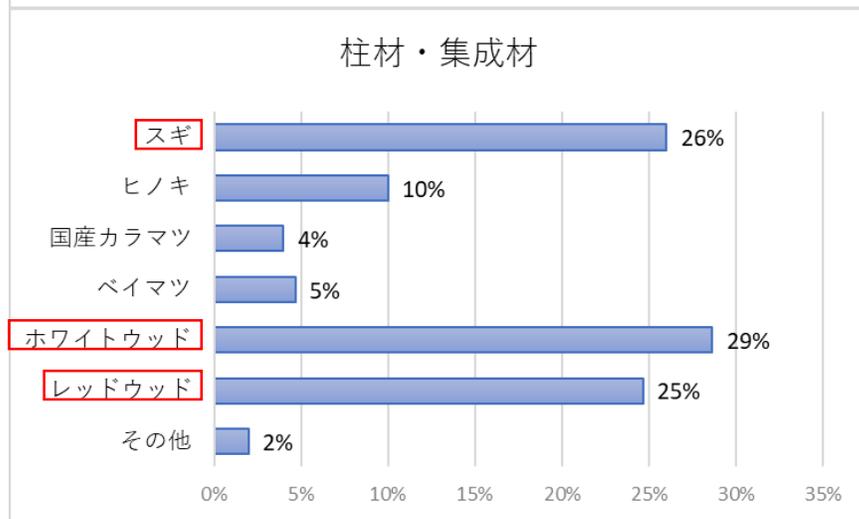
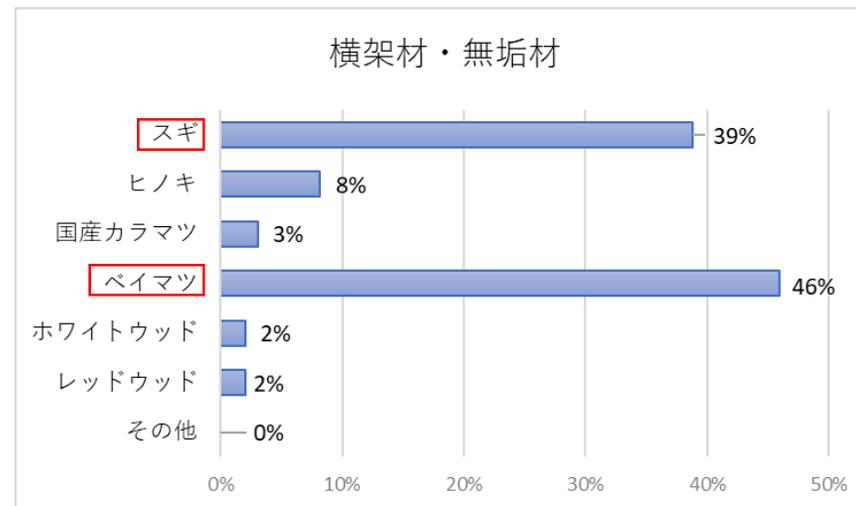
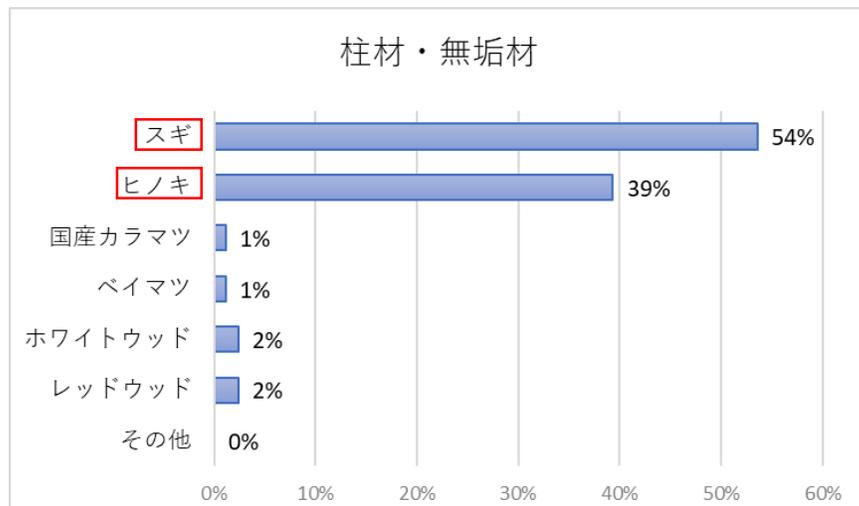


各部位の国産材の使用割合

土台等や面材で国産材の使用割合が大きい

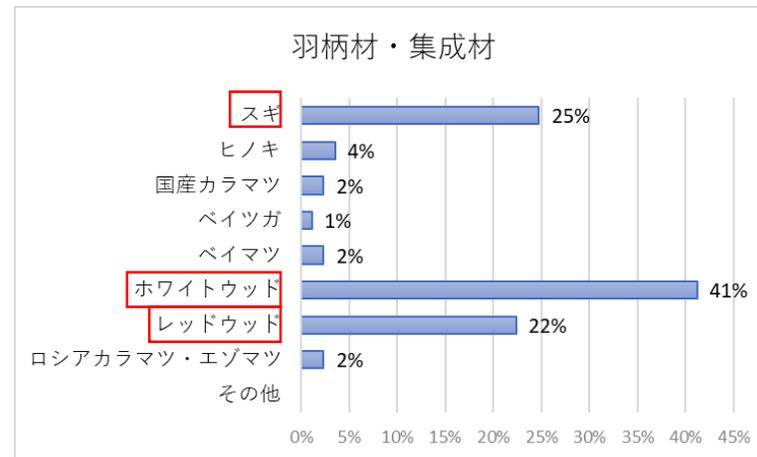
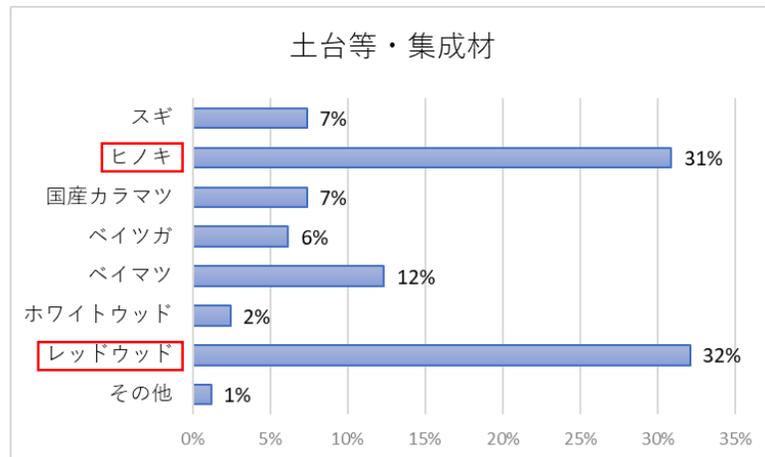
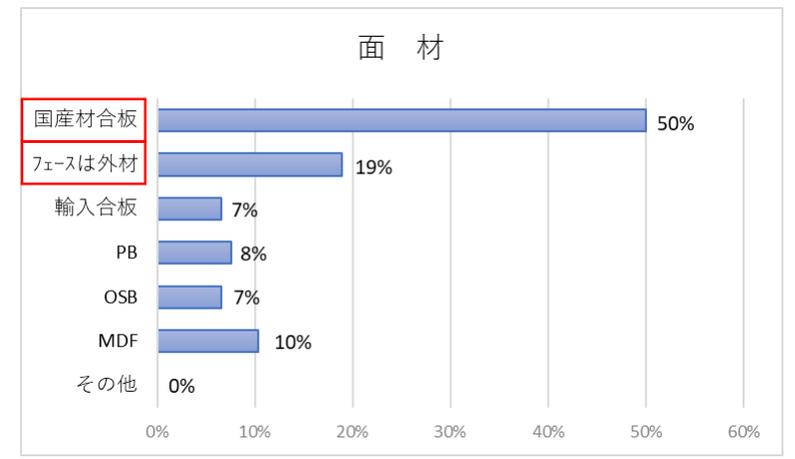
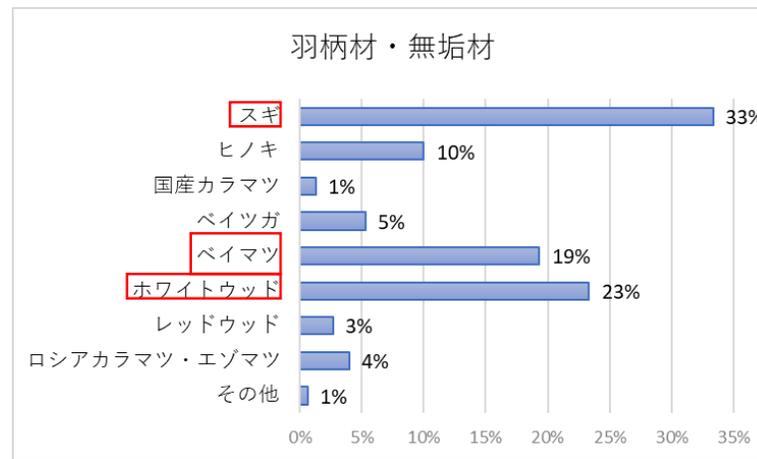
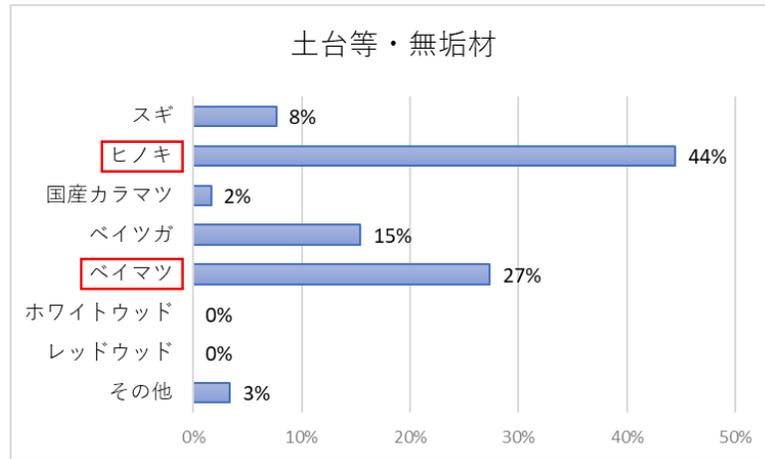


部位毎の国産材の使用割合（1）



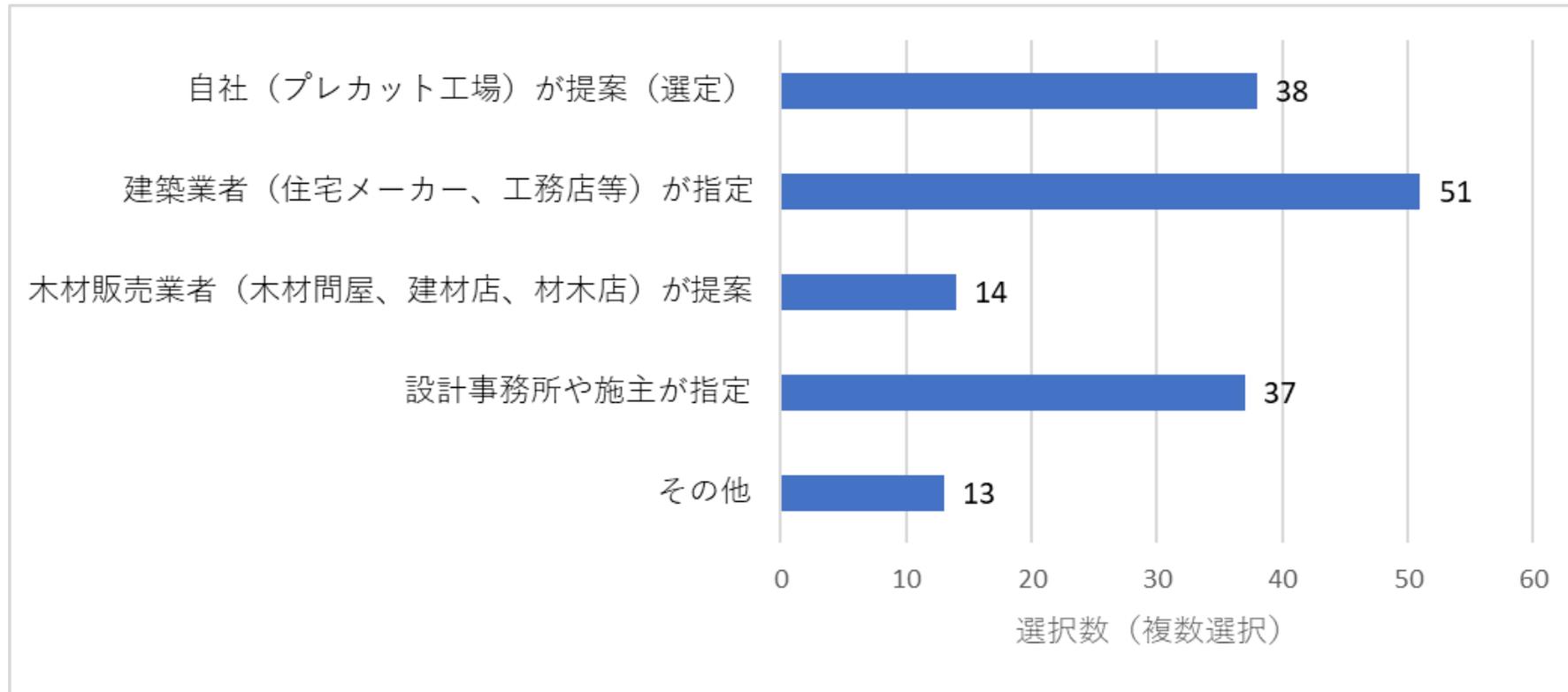
（注）この資料は使っているか否かの資料であって、使用量は加味されていないことに注意が必要

部位毎の国産材の使用割合（2）



樹種選択者のパターン

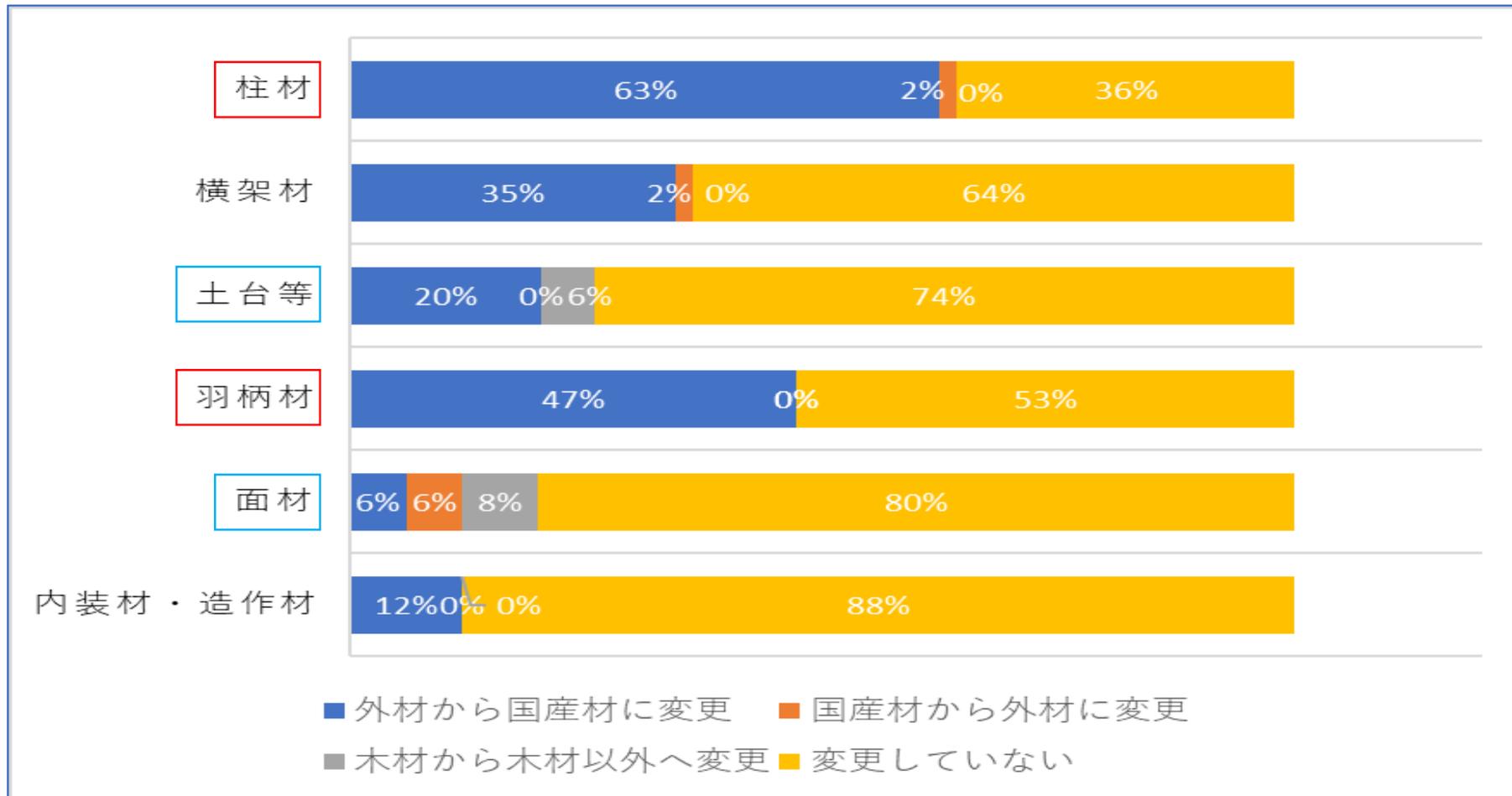
建築業者、設計事務所・施主の他にプレカット工場も樹種選択者の一翼を担っている。



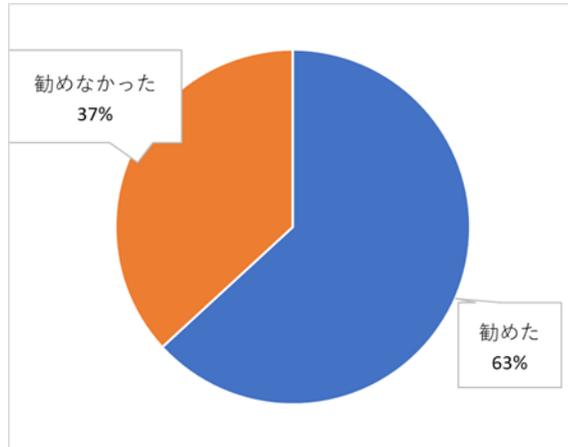
(注) この資料は選択者であるか否かの資料であって、量は加味されていないことに注意が必要

ウッドショック時の使用樹種の変更

柱材や羽柄材では外材から国産材への変更が多かった。土台等や面材では変更なしが多かったが、これはウッドショックの前から国産材の利用が多かったことによるものかと思慮。



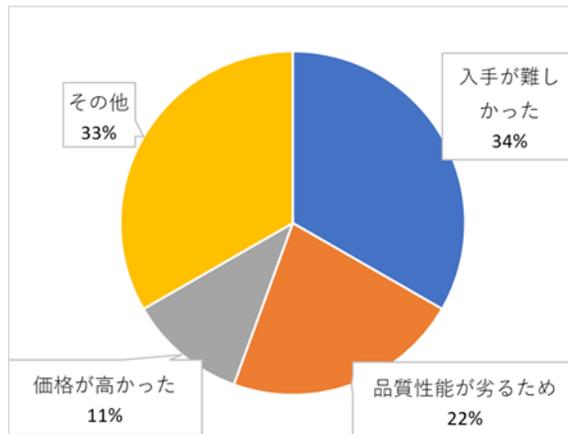
国産材の利用を勧めたか



【勧めた内容】

- 間柱をWWKDからスギKDへ、柱をWW集成からスギ集成への変更を勧めた。
- 樹種に係わらず、その時に確保できる材料に変更を勧めた。
- 使用に耐えることを許容応力度計算により証明することで、国産材の使用量・品目を増やす提案をした。
- WW集成柱の入荷が少ない時にスギKD柱を勧めた。

勧めなかった場合の理由

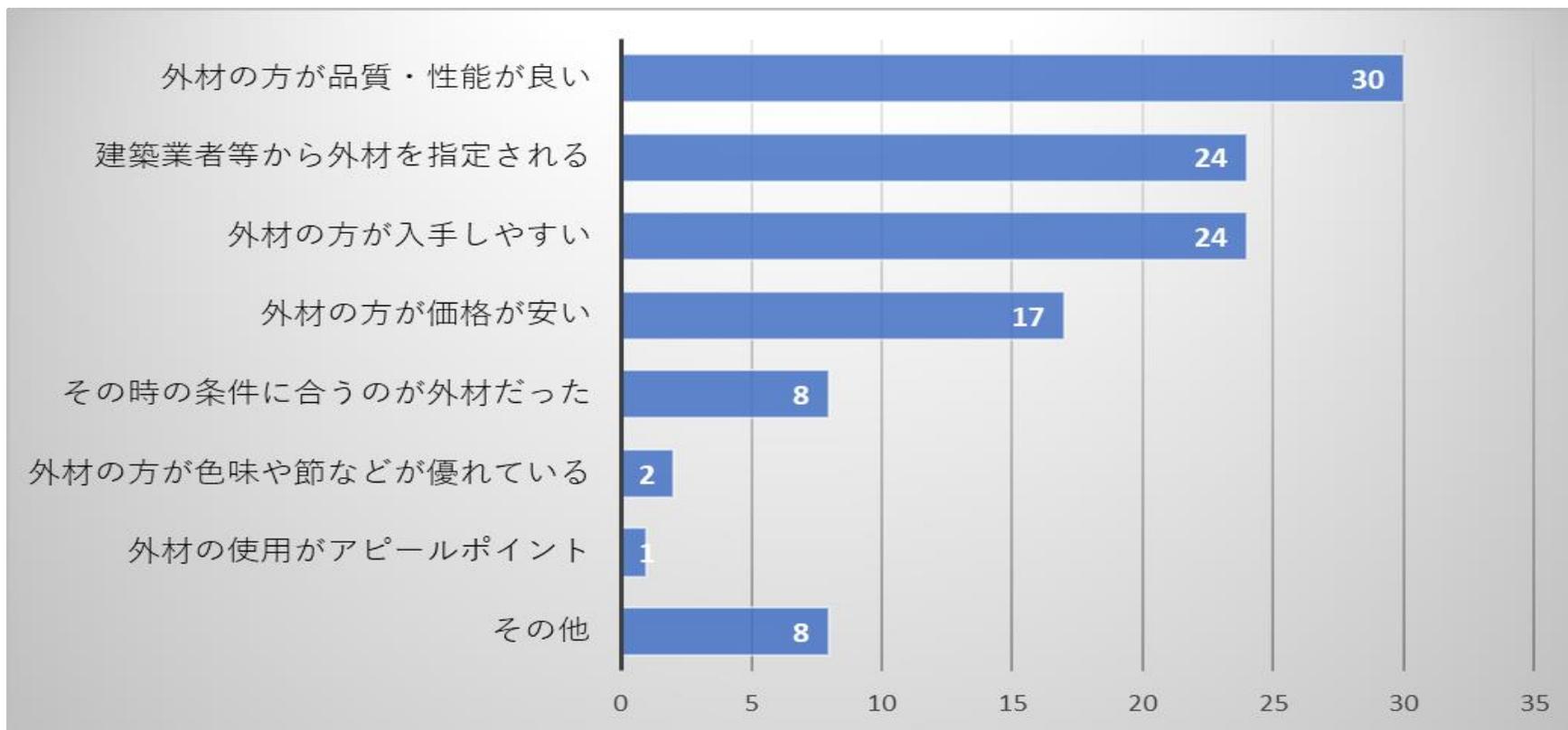


【勧めなかった理由】

- 国産材を使う大工工務店からの指定材料なので、外材の需給変動の影響がなかったため。
- 元々国産材を使っていたため。
- 材料調達に問題がなかったため。
- 材料メーカーとの情報交換を行っていたので、供給が間に合わなくなる事態には至らなかったため。

木材製品について主に外材を使用する理由

「外材の方が品質・性能が良い」が一番多かった。次いで「建築業者等からの指定」、「入手しやすい」が多かった。「価格が安い」はその次となったが、このアンケートを行った令和4年12月時点の木材価格を考慮する必要があるものと思慮。



国産材の利用向上に向けての自由記載（抜粋）

- 横架材・平物の物量と品質安定。
- 高強度（E120以上）の安定供給。絶対量の不足。羽柄材の良質な樹種の確保。
- 杉の弱いイメージの払拭。
- 柱材、羽柄材などは、品質、供給量、価格及び納期など安定してきている。一方、横架材は国産材を積極的に使用する地域でないことも一因だが、柱材、羽柄材に比べ安心して使用できる環境が整っていない。
- 梁桁材は外材一択になってしまっているのが杉、ヒノキの集成梁桁等がもっと一般的に流通して欲しい。
- 利用量に関しては横架材の変更が最も効率が高いので、製材の業者（PC工場へ納入している業者）が国産材へのシフトを意識するような施策を出さなければ改善されないと思います。工期短縮や直貼が主流の時代では、集成材・米松KDを利用せざるをえない。集成材の国産材化と価格安定が必要。
- 平角の小口断面150・180×105市場は、輸入材との価格差があれば市場に定着すると思われる。
- 施主が国産材利用を希望することが大事と思われる。SDG'S資源の循環の大切さを普及。
- 木材は国際流通商品であることから、代替関係にある外材と国産材との価格のバランスが重要。
- ノンJASのKD材で、内部割れが顕著な粗悪品が流通している。